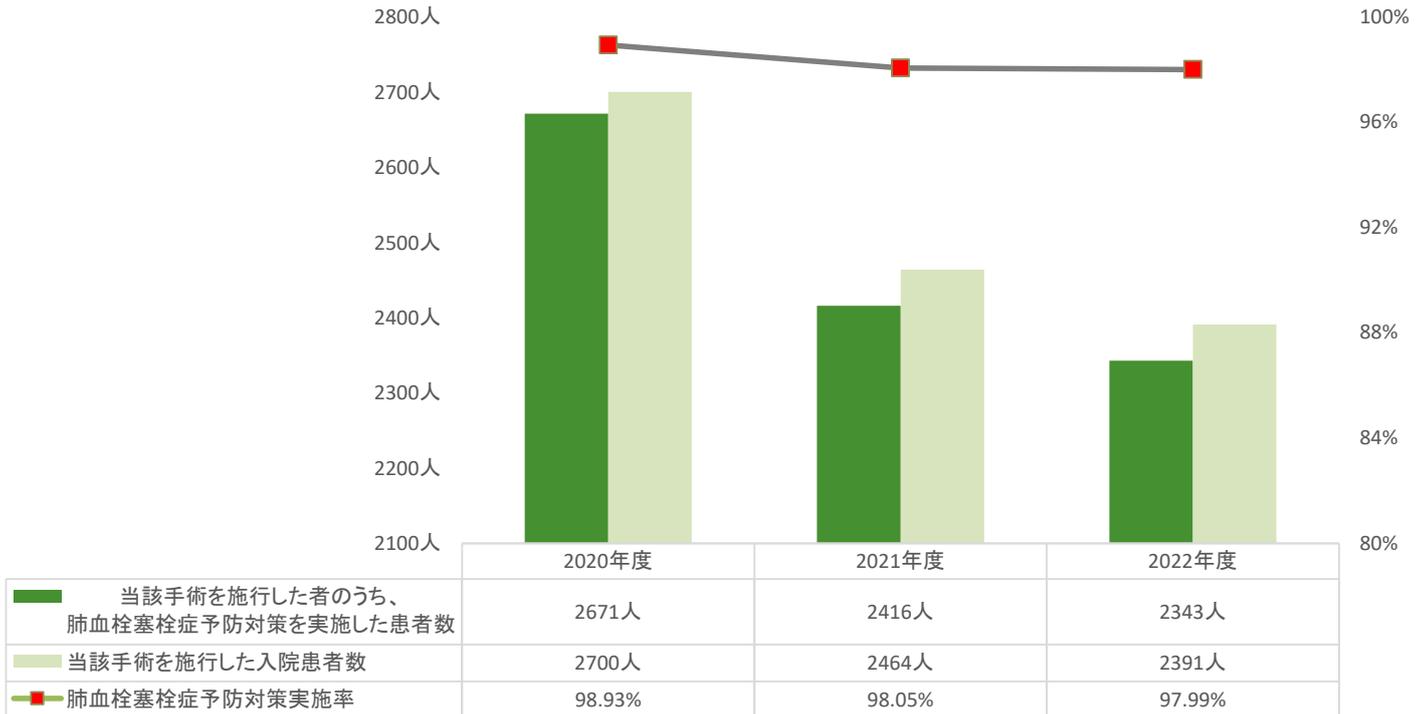


2020年度－2022年度 手術患者の肺血栓塞栓症予防対策実施率推移



※リスクレベルが「中」以上の手術は、「肺血栓塞栓症／深部静脈血栓症の診断、治療、予防に関するガイドライン」（日本循環器学会等）に準じて抽出

【指標の説明】

国内において、肺血栓塞栓症を発症した場合の院内死亡率は14%と報告されています。そのうち40%以上が発症1時間以内の突然死であるとされており、臨床診断率の向上だけでは予後の改善は達成できないといえます。よって、発症予防対策が必要不可欠です。
当院では、肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した入院患者さんに対し、高い割合で予防対策を実施しております。

【計算方法】

分子：分母のうち肺血栓塞栓症の予防対策（弾性ストッキングの着用、抗凝固療法のいずれか）が実施された患者数
 分母：肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した入院患者数
 分子／分母 × 100